【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第１区分
【発行日】平成21年2月19日(2009.2.19)

【公開番号】特開2008-206407(P2008-206407A)
【公開日】平成20年9月11日(2008.9.11)
【年通号数】公開・登録公報2008-036
【出願番号】特願2007-43480(P2007-43480)
【国際特許分類】
Ａ０１Ｋ　13/00　　(2006.01)
Ｂ０８Ｂ　 7/04　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ０１Ｋ　13/00　　Ｆ
Ｂ０８Ｂ　 7/04　　Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成20年12月19日(2008.12.19)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４３】
運転スイッチ２５がＯＦＦになることにより、ブラシモータ２７の回転は、図９に示すように、正転方向にのみ回転する（図１１中、矢印Ｆｐ方向）。また、洗浄液ポンプ４３，下噴射部バルブ５４ｄはそのままＯＮを継続し、予め設定したＴｅ時間（例えば、数〔秒〕程度）経過後に、洗浄液ポンプ４３，下噴射部バルブ５４ｄ及びブラシモータ２７がＯＦＦになる。したがって、運転スイッチ２５をＯＦＦにした後、このＴｅ時間内に、洗浄ユニットＵ１を乳頭Ｍｍから離脱する。この場合、Ｔｅ時間内では、回転するフィン状部８ｗｆ…により洗浄部材８は送風ファンとして機能するため、Ｔｅ時間内に、洗浄ユニットＵ１を乳頭Ｍｍから離脱することにより、乳頭Ｍｍに対して迅速な液切り及び乾燥を行うことができる。特に、このようなファン機能に加え、離脱中に下噴射部５ｄから洗浄液Ｌの噴射を継続した場合であっても、乳頭Ｍｍの周面部Ｍｆの径が洗浄部材８の挿通孔８ｉより大きい部位は、挿通孔８ｉにより液切りが行われるとともに、乳頭Ｍｍの周面部Ｍｆの径が洗浄部材８の挿通孔８ｉより小さい部位は、挿通孔８ｉと周面部Ｍｆ間における隙間から空気の高速進入及びブラシ機構部３の正転方向のみの回転により迅速な液切り及び乾燥を行うことができる。図１１が離脱時の状態を示している。そして、Ｔｅ時間経過後、さらに、Ｔｆ時間（例えば、数〔秒〕程度）が経過すれば、吸引ファン４７が自動でＯＦＦになる。以上により、一つの乳頭Ｍｍの主洗浄が終了する。同様の主洗浄を他の三つの乳頭Ｍｍ…に対しても順次行う。